

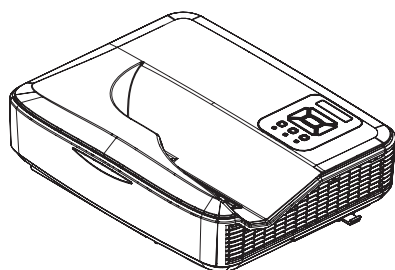
ワイード

SP-UW4500

目次

設置ガイド

設置ガイド & ユーザーマニュアル【簡易版】



ワイードご相談窓口
089-924-5020

※お問い合わせの際はプロジェクターに記載されているシリアルナンバーを確認することがあります

サカワ ウェブサイト
www.sakawa.net

ユーザーマニュアル・各種ソフトウェアは
サカワウェブサイトからダウンロードできます

ワイードの使い方や不具合に関するお問い合わせ
修理のご依頼はこちらまで

【受付時間】月～金 9:00～17:00（土日祝を除く）

■付属ソフトウェア ピックアップ

ワイードサイズ 16:6 で教材が作れる！

ワイードウェブ

ブラウザアプリなので OS 問わず使える「教材作成・授業支援アプリ」

IR ペンを使用するために必須

LCT ユーティリティソフトウェア

ガイド表示やペン書き込みを行うには

ワイードソフトウェア

同梱品一覧	2
コンピュータ (PC) への接続例	3
安全上のご注意	4
壁に取り付ける	6
取付測定チャート	7
壁取付	7
天吊取付	9
直置き	10
映像を調整する	11
表示モードと解像度を設定する	12
曲面補正を行う	17
フォーカスを調整する	19
IR ペンを使うための初期設定	20
ユーティリティソフトウェアのインストール	20
タッチ位置の校正を行う	24

ユーザーマニュアル【簡易版】

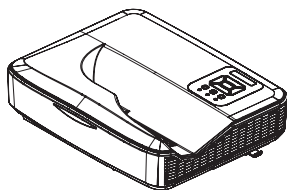
便利な機能	27
デジタルスライド機能	27
2 画面機能	28
インタラクティブ機能	30
IR ペンの使い方	30
ワイードソフトウェアのダウンロード	31
ワイードソフトウェアでできること	31
ワイードウェブを使う	32
困ったときは	33
トラブルシューティング	33
LED インジケーターの見方	34
トラブルに関するお問い合わせ先	36



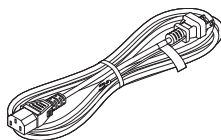
同梱品一覧

箱の内容を取り出して、下記の各アイテムが含まれていることをご確認ください。
万一、不足品がある場合は、販売店までご連絡ください。

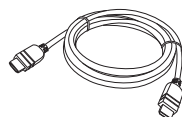
※形状等、一部実物と異なる場合があります。



ワイド本体



電源コード (4.5m)



HDMI ケーブル (1.8m)



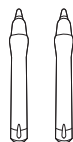
USB Type-A-B ケーブル (5m)



リモコン



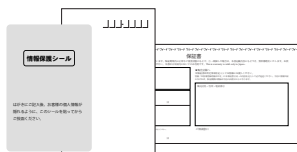
単 4 電池 × 2



IR ペン
(単 4 電池 1 本付属) × 2



交換用ペン先 × 8

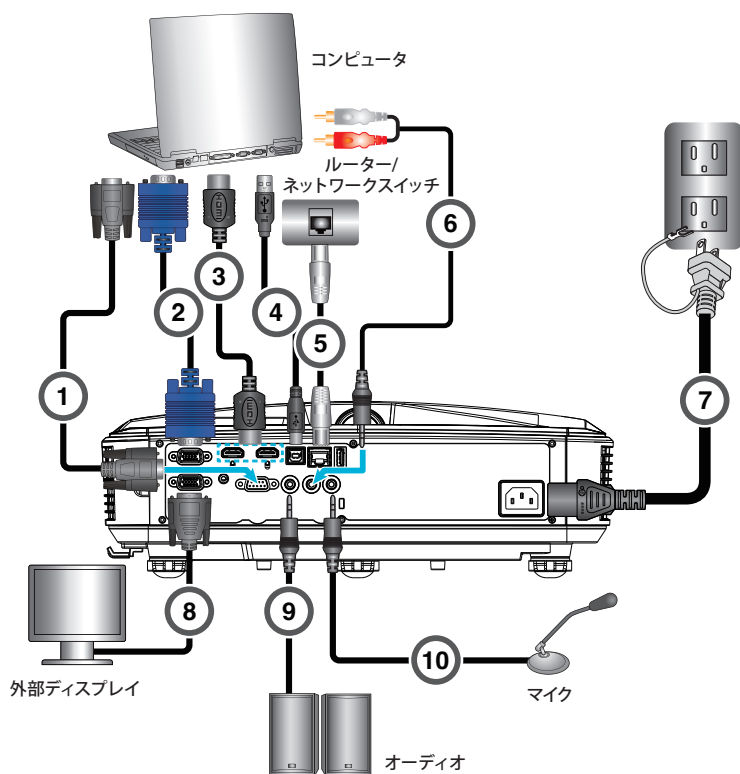


保証書と返信用ハガキと保護シール



インストールガイド
(本誌)

コンピュータ (PC) への接続例



- (*) オプションのアクセサリ
- (**) 製品に同梱されている電源コードは本機専用であり、他の製品には使用できません。

接続ケーブル

1. RS-232ケーブル*
2. VGAケーブル*
3. HDMIケーブル
4. USB Type-A-Bケーブル
5. RJ-45ケーブル*
6. 音声ケーブル*
7. 電源コード**
8. VGA出力ケーブル*
9. 音声ケーブル*
10. 音声入力ケーブル*

安全上のご注意

ワイードを安全に使用するために、ご使用前に必ず本書をお読みください。本書の内容に反した取扱いが故障や事故の原因になります。本書はいつでも参照できるように大切に保管してください。

安全に関する表示



警告：
この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。

設置上の注意

	 警告
1	ワイードを壁に取付ける際は、ワイード壁掛金物 KM-CR001（以下、壁掛金物とします。）を使用してください。壁掛金物は、ワイードの壁掛け設置専用品です。 重さや取付したのによっては破損や落下します。壁掛金物が落下すると、人が死亡または重傷を負うおそれがあります。
2	壁への取付 / 取外し工事は必ず二人以上の専門業者で落下防止措置をとって行ってください。 工事に不備があると、壁掛金物の落下によるけがや事故がおきます。
3	壁掛金物を壁に取付けるときは、壁掛金物とプロジェクターを支えられる十分な強度が壁に必要です。 壁掛金物はコンクリートの壁に取付けてください。壁に設置する前に壁の強度を確認してください。強度不足のときは十分に補強してから設置してください。
4	振動や衝撃が伝わる不安定な場所には設置しないでください。 壁掛金物や設置壁面に破損するおそれがあります。壁掛金物が落下すると、人が死亡または重傷を負うおそれがあります。
5	壁に取付ける際は、以下の基準を満たすコンクリートビス、コンクリートプラグ、アンカーボルトを参考に設置してください。 コンクリートビス：直径 6mm 以上、長さ 50 mm以上 コンクリートプラグ：直径 10 φ、深さ 5.5 mm コンクリートアンカー：ナット・ボルト等は M10 または 3/8 インチ x60mm ※コンクリートビスの直径 6mm 未満は使用しないでください。 ※コンクリートプラグを使用する場合は適合ねじを必ず使用してください。 ※コンクリートアンカーを使う場合はベースプレート下側 4 つの穴を 12 φに広げて使用してください。 ※落下事故をおこさないように、壁の状況に合わせて専門業者にて安全で最適な工法を選択してください。 ※取付強度不足等による落下事故については、当社は一切責任を負いませんのでご了承ください。
6	調整後はすべてのネジを完全に締め直してください。 ネジがゆるいと壁掛金物の落下によるけがや事故がおきます。
7	設置後は、ボルト・ナット全てのネジ類を絶対にゆるめないでください。 定期的にネジ類のゆるみがないことを確認してください。万一、ゆるみがあるときは確実に締め直してください。ネジがゆるいと壁掛金物の落下によるけがや事故がおきます。 なお、ネジまたはスレッドの損傷を避けるため過度の締めすぎに注意してください。
8	ネジ類にゆるみや破損個所がないか定期的に点検してください。 破損があるときは使用をすぐに中止してください。壁掛金物が落下すると、人が死亡または重傷を負うおそれがあります。
9	壁掛金物には絶対にぶら下らないでください。また重いものをぶら下けないでください。 壁掛金物の最大支持重量は 15kg です。それ以上の荷重を与えないでください。 壁掛金物が落下すると、人が死亡または重傷を負うおそれがあります。

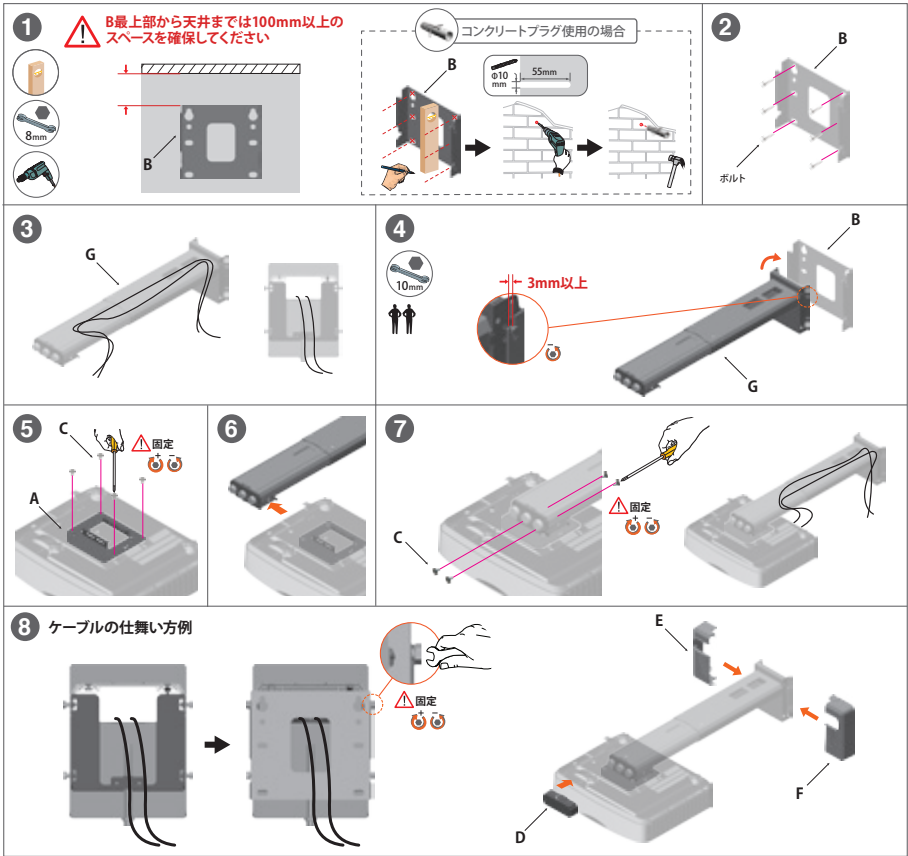
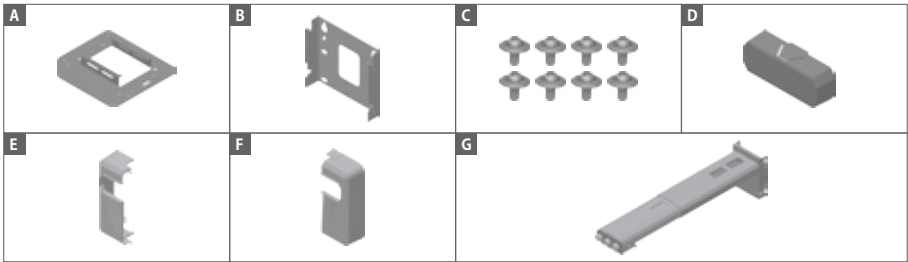
10	壁掛金物の分解・改造は絶対にしないでください。 壁掛金物が落下する原因です。
11	電源コードの取扱いは注意してください。取扱いを誤ると、火災・感電の原因になります。 取扱うときは、次の点に気を付けてください。 - 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない。 - 破損や加工した電源コードは使用しない。 - 電源コードを壁掛金物に通すときは強い力で引っ張らない。断線します。
12	ケーブルはボルトやネジを避けて配線してください。 ケーブルの取り扱いを誤ると、火災・感電の原因となります。
13	壁や取付の状況に合わせて、落下防止ワイヤーを設置してください。

- 取付けの強度不足や品質不足、地震・台風などの自然災害に起因したお客様や他の人への危害や財産への損害について、当社は一切責任を負いませんのでご了承ください。
- 壁の種類及びプロジェクターの取付工事の品質は、当社の責任範囲外です。
- 壁掛金物を取外し後は壁にネジ孔とネジが残ります。また、長期使用後は壁面にシミが残る場合があります。
- 壁掛金物のカバーは太陽光や経年劣化により変色します。

プロジェクター設置場所について

- あらかじめ電源工事を済ませてください。
- 取付け前に天井板と壁の構造を確認し、耐久性の高い場所を選んでください。
- 壁面は壁掛金物とプロジェクターの総重量の4倍以上を支持でき、かつ地震およびその他の外部からの振動に耐える強度を確保してください。
- 次の場所は避けて取り付けてください：
 - 可燃性ガス及び爆発性ガスなどが大気中存在するおそれのある場所
 - エアコンの通気口付近、または埃、塵、油煙の多い場所
 - 高温、多湿、または水のかかる場所
 - 振動及び衝撃を受けやすい場所
 - 強い直射日光の当たる場所
 - 屋外、傾斜面
- 蛍光灯、エアコンなどの他の電気製品から離れた位置に設置してください。（蛍光灯の光の種類によってはプロジェクターを操作するリモコンが誤動作することがあります）
- ノイズの影響などから映像出力の品質を低下させないために、パソコン等と接続するケーブルは15m以下になるように設置することをすすめます。
- プロジェクターは投影面に対して傾き過ぎないように設置してください。
- 電子黒板機能を使用するときは、太陽光が直接あたる場所には設置しないでください。プロジェクターや投影場所に太陽光が直接あたると、電子黒板機能が正しく動作しないことがあります。
- プロジェクターをご使用の際は、映写対応黒板または、映写対応ホワイトボードで使用していただくか、マグネットシートスクリーンに投影して使用されることをおすすめします。使用環境によっては、映写対応黒板および映写対応ホワイトボードやマグネットシートスクリーンに投影した場合でも投影映像が見づらくなる場合があります。

壁に取り付ける

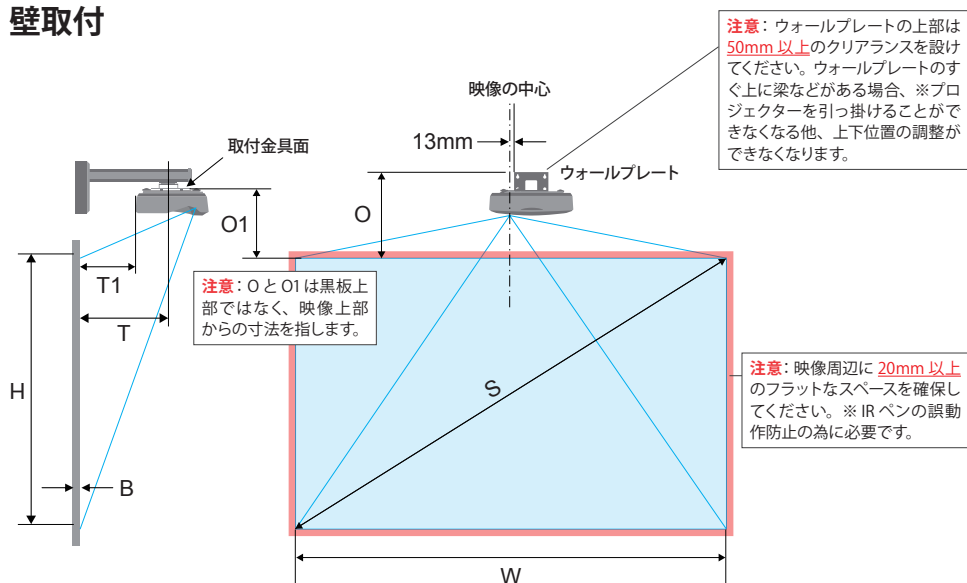


取付測定チャート

設置業者様へ【必ずお読みください】

- ・ **投影面周辺に20mm以上のフラットなスペースを確保してください。投影面周辺20mm未満に黒板枠や粉受けがある場合、IRペンの校正及び使用に支障をきたす恐れがあります。**
- ・ 数値は目安です。設置する場所や投影面の状態、プロジェクターの個体差等により数値に差異が発生することがあります。
- ・ 「垂直キーストーン機能」を使用すると画質が劣化したり「デジタルスライド機能」使用時に画角が変形する恐れがあります。
- ・ 希望投影サイズが表にない場合、最も近いサイズの値を参考にしてください。(例：132インチ→130インチ)
- ・ アスペクト比16:6、16:9、4:3それぞれの「投影高さ」の値は同じです。
- ・ 壁取付のチャートの値は、壁掛金具の上下調整位置をセンターの場合として算出しています。壁掛金具による金具の上下調整幅は、±約38mmです。

壁取付



“平面”に投影する場合 [画面アスペクト比 16：6]

[単位：mm]

投影サイズ(S) (インチ)※1	投影幅(W)※1	投影高さ(H)	投影面からプロ ジェクター中心ま での距離(T)	投影面からプロ ジェクターの背面 までの距離(T1)	映像の最上部から 壁プレートの最上 部までの距離(O)	映像の最上部から 接合突起の最上 部までの距離(O1)
110 (78.8)	2616 (1744)	981	547	400	454	378
115 (82.4)	2735 (1824)	1026	577	430	467	391
120 (85.8)	2854 (1900)	1070	607	460	480	404
125 (89.4)	2973 (1980)	1115	637	490	493	417
130 (93.1)	3092 (2060)	1159	667	520	506	430

※1 …括弧内の数値は、画面アスペクト比 16：9 投影時の目安寸法です。
※取付面より投影面が張り出している場合、出幅を考慮した数値で取付を行ってください。
※オプションの壁掛金具 KM-CR001 は (T) の数値が最大で約 750 までの対応となります。

“曲面”に投影する場合 [画面アスペクト比 16：6]

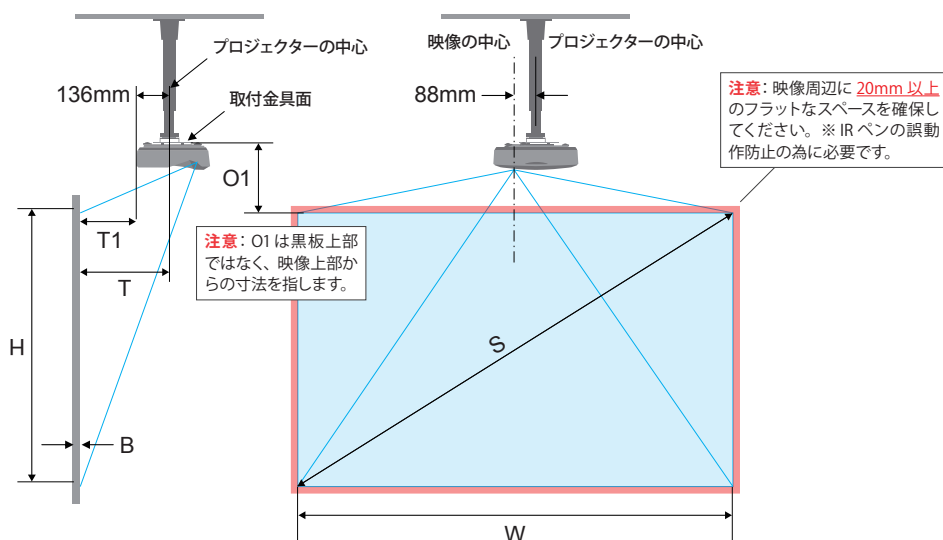
曲面黒板に投影する場合、投影面のカーブが緩やかで平面に近い場合は、上表「“平面” に投影する
場合」の数値で取付を行ってください。

[単位：mm]

投影サイズ(S) (インチ)	投影幅(W)	投影高さ(H)	投影面からプロ ジェクター中心ま での距離(T)	投影面からプロ ジェクターの背面 までの距離(T1)	映像の最上部から 壁プレートの最上 部までの距離(O)	映像の最上部から 接合突起の最上 部までの距離(O1)
110	2616	981	607	460	480	404
115	2735	1026	637	490	493	417
120	2854	1070	667	520	506	430
125	2973	1115	697	550	519	443
130	3092	1159	727	580	532	456

※数値は、R 値 21626.62 (一般的な曲面黒板の R 値を参考) の曲面に対し、「曲面補正機能」を使って投影画面をきれいな長方形に調整した際の寸法です。
※オプションの壁掛金具 KM-CR001 は (T) の数値が最大で約 750 までの対応となります。

天吊取付



平面に投影する場合 [画面アスペクト比 16:6]※参考値

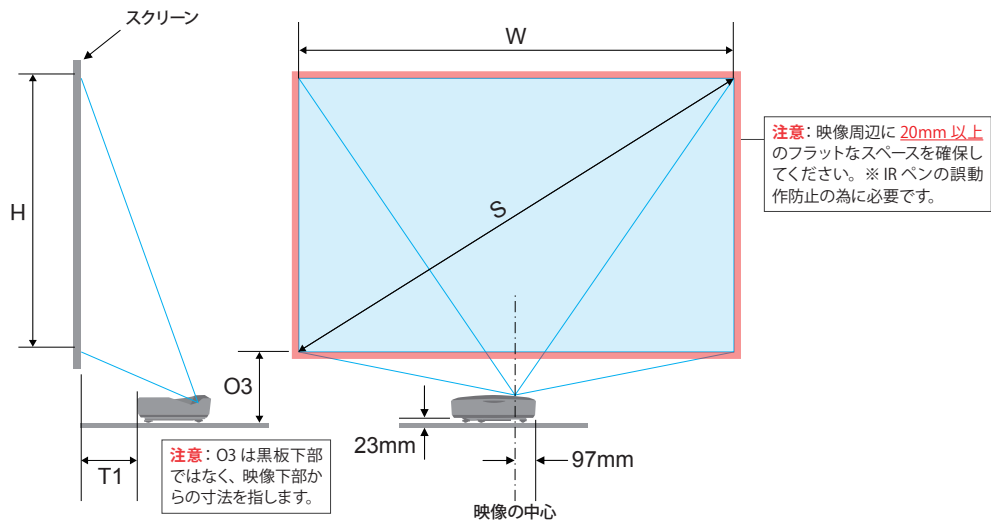
以下のチャートに従って設置した場合、投影サイズが 125 インチ以上になります。金具設置後の位置調整が難しい天吊設置では、まずは大きめに映像を映し、その後、プロジェクター本体の「設定メニュー」>「スクリーン」より、「画面縮小」や「映像デジタル補正」を使用して調整を行うことをおすすめします。(参照: [ユーザーマニュアル「スクリーン」](#))

[単位: mm]

投影サイズ(S) (インチ)※1	投影幅(W)※1	投影高さ(H)	投影面からプロジェクター中心までの距離(T)	投影面からプロジェクターの背面までの距離(T1)	映像の最上部から接合突起の最上部までの距離(O1)
110 (78.8)	2616 (1744)	981	577	430	391
120 (85.8)	2854 (1900)	1070	637	490	417
130 (93.1)	3092 (2060)	1159	697	550	443

※1 括弧内の数値は、画面アスペクト比 16:9 投影時の目安寸法です。

直置き



・ 数値は参考寸法です。設置の際は、実際に映像を投影しながら調整することをおすすめします。

平面に投影する場合 [画面アスペクト比 16：6]

[単位：mm]

投影サイズ(S) (インチ)※1	投影幅(W)※1	投影高さ(H)	投影面からプロジェクターの背面までの距離(T1)	映像の最下部からテーブルの最上部までの距離(O3)
110 (78.8)	2616 (1744)	981	400	384
115 (82.4)	2735 (1824)	1026	430	397
120 (85.8)	2854 (1900)	1070	460	410
125 (89.4)	2973 (1980)	1115	490	423
130 (93.1)	3092 (2060)	1159	520	436

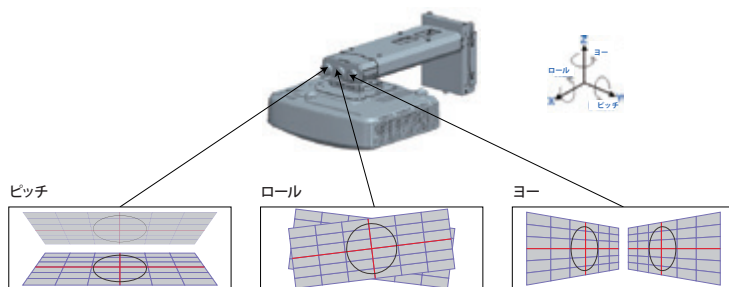
※ 1 括弧内の数値は、画面アスペクト比 16：9 投影時の目安寸法です。

映像を調整する

画角調整の際はメニューより、「設定」>「テストパターン」を表示すると調整がしやすくなります。

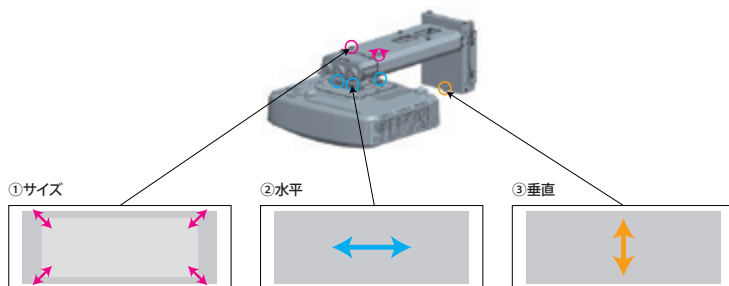
ステップ1: ピッチ、ロールおよびヨーの調整

ピッチ、ロールおよびヨーの調整ノブをまわして、映像がきれいな長方形になるようにします。



ステップ2: 水平、垂直およびサイズ調整

1. ネジを緩めてから、プロジェクターを動かして映像サイズを調整します。調整後はネジを締め直します。
2. ネジを緩めてから、プロジェクターを動かして映像を水平方向に調整します。調整後はネジを締め直します。
3. 六角レンチを回して映像を垂直方向に調整します。



表示モードと解像度を設定する

画面の表示モードを変更する

コンピュータの表示モード「複製」と「拡張」を理解し、使用方法に適した表示モードを選択します。

注意：プロジェクターとコンピュータを接続した状態でなければ表示モードは選択できません。

複製モードとは

コンピュータ画面とプロジェクター投影画面が同じになります。

それぞれの画面の解像度（アスペクト比）も同じになるため、ワイドに最適な解像度に設定した場合、下図のように、コンピュータ画面にはワイド画面（アスペクト比 16：6）が表示され、上下に黒の余白が発生します。



拡張モードとは

1つの画面をコンピュータ画面とプロジェクター投影画面で分割して表示します。

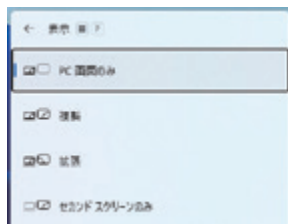
それぞれの画面に対して解像度の設定が可能です。



複製と拡張を切り替える

Windows 11、Windows 10 の操作手順

キーボードの「**Windows**」キーを押しながら、「**P**」キーを数回押して任意の表示モードを選択します。



Windows 11の場合

macOS の操作手順



- OS のバージョンによって画面や名称は異なることがあります。

1. アップルメニュー > 「システム設定」を選択します。



2. 「ディスプレイ」を選択して、「使用形態」より任意の表示モードを選択します。

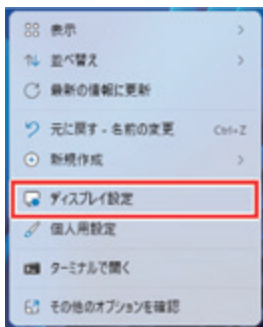


画面解像度を変更する

コンピュータの画面解像度を、アスペクト比（16：6）に最適な値「1920 × 720」に変更します。

Windows 11 の操作手順

1. デスクトップ上で右クリックし、表示されるメニューから「ディスプレイ設定」を選択します。

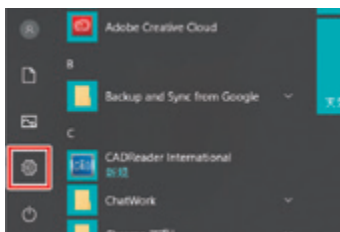


2. ディスプレイ設定画面が表示されますので、「ディスプレイ解像度」より「1920 × 720」を選択します。



Windows 10 の操作手順

1. 「スタート」>「」（設定）を選択します。



2. 「Windows の設定」が表示されます。「システム」を選択します。



3. 「システム」が表示されます。画面左側から「ディスプレイ」を選択し、「解像度」の設定項目を選択して、表示された一覧から「1920 × 720」を選択します。



macOS の操作手順

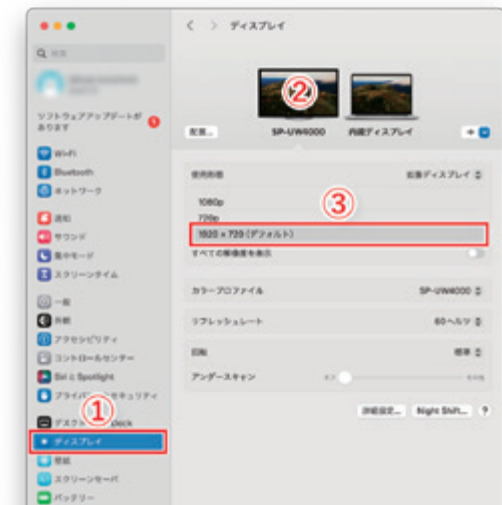


- OS のバージョンによって画面や名称は異なることがあります。

1. アップルメニュー>「システム設定」を選択します。



2. 「ディスプレイ」>「ワイド（型番）」の順に選択し、表示された一覧から「1920 × 720」を選択します。



曲面補正を行う

湾曲した面に投影した際に発生する映像の歪みを補正できます。



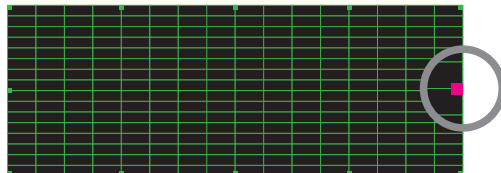
- 曲面補正は、コンピュータを映像ケーブルで接続して投影がされている状態で設定することをお勧めします。

リモコンでの操作手順

1. リモコンの [8] 【曲面補正】 ボタンを押します。



2. 曲面補正グリッドが表示されます。リモコンの 4 方向選択ボタンで調整したい頂点を選択し（決定は【決定】ボタン）、リモコンの 4 方向選択ボタンで頂点を移動させて映像がきれいな長方形になるように調整してください。

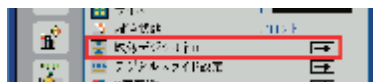


現在選択中の頂点が紫色で表示されます。

3. 調整が完了したら、必ず【終了】ボタンを押して補正画面を終了させてください。曲面補正グリッドの終了時に補正設定が保存されます。

メニューでの操作手順

1. メニューを開き、「スクリーン」>「映像デジタル補正」を選択します。



2. 「曲面補正」>「5 × 3」を選択すると、曲面補正グリッドが表示されますので前項を参考に調整を行ってください。

設定のリセット

設定のリセットはメニューを開き、「スクリーン」>「映像デジタル補正」>「映像デジタル補正リセット」で行います。

曲面黑板に投影する際の補正手順

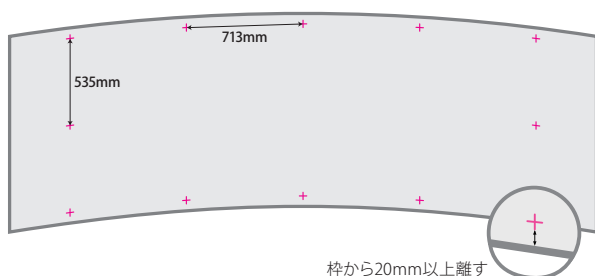
表面が湾曲した黑板（曲面黑板）に投影する際は、以下の手順に従って補正を行うとスムーズかつ綺麗に補正ができます。

補正の手順（3600mm×1200mmの曲面黑板に対して約120インチで投影する場合）

1. 投影予定位置の上部中心を基準に、黑板に 1 2 個の印をつけます。



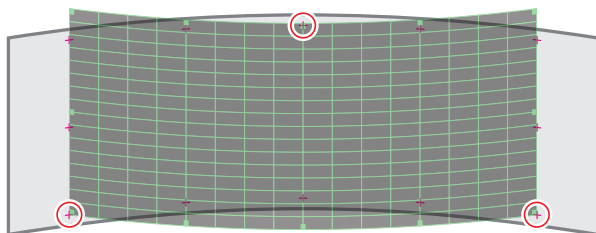
- ・ 映像の周辺に 20mm 以上の何も無いスペースを確保してください。



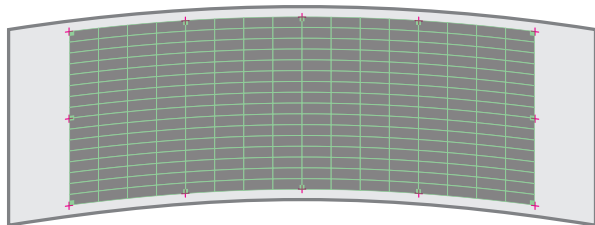
2. 曲面補正グリッドを表示し、丸で囲んだ 3 箇所の印とグリッドの頂点を大まかに合わせます。印より映像を少し大きめにするのがポイントです。



- ・ 映像が下の様な台形にならないように、左右の辺は平行を保ってください。



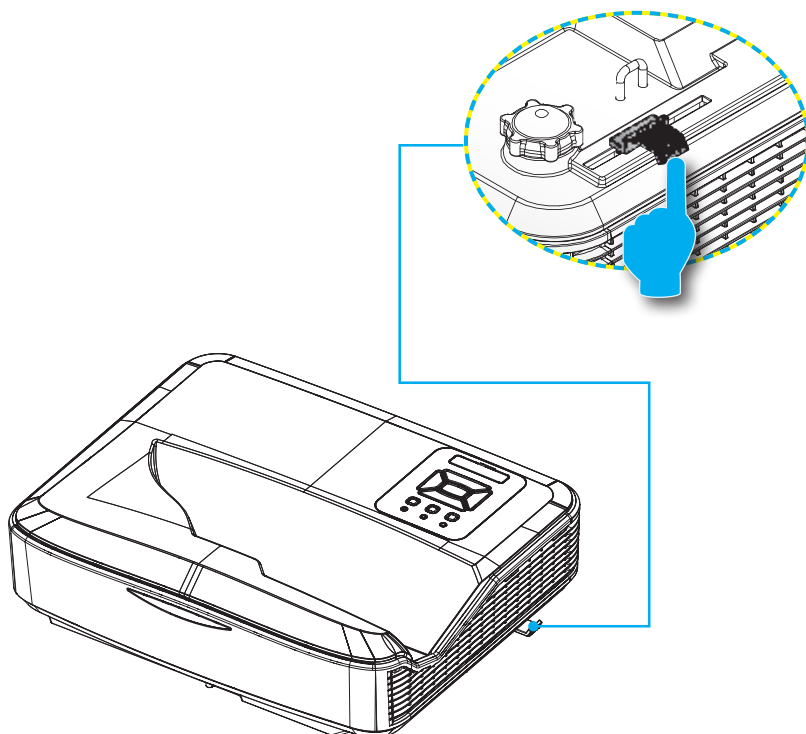
3. リモコンを使用して、グリッドの各頂点を印に合わせるように動かします。



4. 設定後は、必ずリモコンの【終了】ボタンで曲面補正グリッドを終了させてください。曲面補正グリッドの終了時に補正設定が保存されます。

フォーカスを調整する

映像のフォーカスを合わせるには、フォーカスレバーをスライドさせます。



IRペンを使うための初期設定

ユーティリティソフトウェアのインストール

タッチ位置の校正を行う際に必要なソフトウェアのインストールを行います。

ソフトウェア動作環境

ソフトウェアのインストールの前に、コンピュータが以下の条件を満たしていることを確認してください。

システム要件	
オペレーティングシステム	Windows: Windows 11 / Windows 10 / Windows 8.1 / Windows 8 ※ .NET Framework 4.0 のインストールが必要です macOS: macOS 14 ~ macOS 11
CPU	Intel Core™ i3 またはそれ以上
メモリ	2GB またはそれ以上
ハードディスク必要空き容量	150MB 以上

インストールの準備

株式会社サカワ web サイト（www.sakawa.net）から、IR ペン & LCT ユーティリティソフトウェアのインストーラーをダウンロードし、以下の手順に従ってインストールを行います。

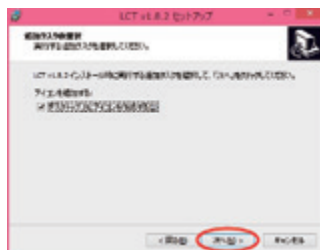
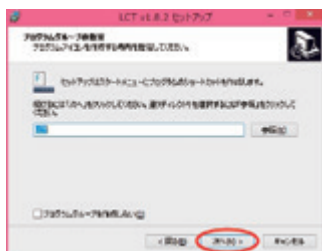
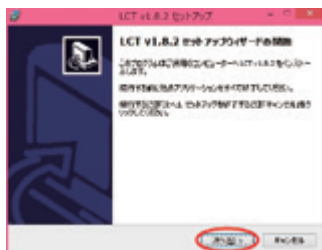
インストールの手順

Windows PC の場合

「LCTvx.x.exe」を起動します。（画像に表示されているソフトウェアのバージョンは、実際の表記と異なる場合があります）



手順に沿ってインストールを行います。途中の「インストール先」の指定などが必要に応じて変更してください。（通常は手順の通りで問題ありません）

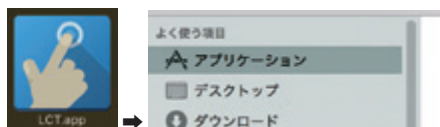


インストールが完了すると、コンピュータのタスクトレイに以下のいずれかのアイコンが表示されます。

アイコン	状態
	プロジェクターとコンピュータが正常に接続されている状態
	プロジェクターとコンピュータが接続されていない状態

macOS の場合

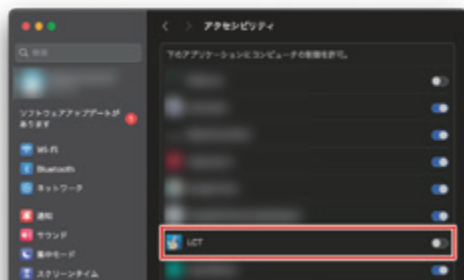
1. 「LCT.app」を「アプリケーション」フォルダに移動します。



2. 「システム設定」>「プライバシーとセキュリティ」>「アクセシビリティ」に移動します。



3. 「LCT」のチェックをオンにします。



インストールが完了すると、コンピュータのタスクトレイに以下のいずれかのアイコンが表示されます。

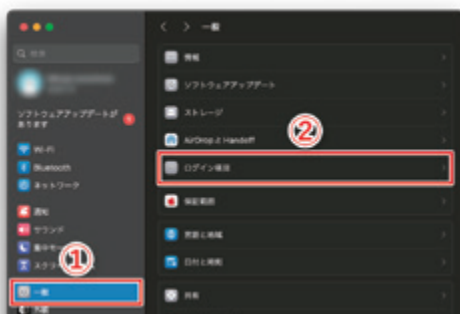
アイコン	状態
	プロジェクターとコンピュータが正常に接続されている状態
	プロジェクターとコンピュータが接続されていない状態

macOS で IR ペン & LCT ユーティリティソフトウェアを ログイン時に自動起動させる設定手順

ワイードの IR ペン（電子ペン）によるタッチ機能を使用するには、IR ペン & LCT ユーティリティソフトウェアが起動している状態である必要があります。

コンピュータを再起動する度に、IR ペン & LCT ユーティリティソフトウェアを手動起動させるのが面倒な場合は、ログイン時に自動的に IR ペン & LCT ユーティリティソフトウェアが立ち上がるように設定することをおすすめします。

1. 「システム設定」>「一般」>「ログイン項目」に移動します。



2. 「ログイン時に開く」の項目の「+」ボタンより、「LCT.app」を追加します。



タッチ位置の校正を行う

IR ペンを使用する場合、初回セットアップ時に必要な作業です。以下の作業は、一度行えばプロジェクター及び投影面の位置関係が変わらない限り再度行う必要はありませんが、タッチ位置がずれたと感じた際にはタッチ位置の校正を再度行ってください。



- ・ プロジェクター側の画面解像度を「1920 × 720」、プロジェクターのアスペクト比を「16:6 (または自動)」にした状態で、タッチ位置の校正を行ってください。

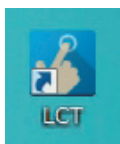
タッチ位置の校正を行う前に

プロジェクターのタッチ位置の認識センサーは非常に繊細です。これからの各種設定を行う前に以下の点に注意することで、より良い状態のタッチ操作環境を再現することができます。

以下の条件を満たしてください

- ▶ 投影面に掲示物などが無いようにしてください。
- ▶ レンズに汚れがないようにしてください。汚れがある場合は、柔らかい布などで拭き取ってください。
- ▶ 部屋の明かりを消してカーテンを閉めるなど、なるべく周囲を暗くしてください。(太陽光や蛍光灯の光が赤外線センサーに干渉することがあります)
- ▶ フォーカスを調整し、投影映像を鮮明にした状態で行ってください。
- ▶ 設定中はレンズを遮らないようにし、本体に振動を与えないでください。

1. 「IR ペン & LCT ユーティリティソフトウェア」を起動します。



2. 「タッチエリア設定」から、「自動」を選択します。タッチエリアの検出が自動で実行されます。



3. 「校正」から、「自動」を選択します。(タッチ位置の校正が自動で実行されます。実行中は、プロジェクター本体を動かさず、また、投影面に影ができないように注意してください)



自動設定がうまくいかない時は・・・

ユーザーマニュアル「[以下の条件を満たしてください](#)」を参照の上、各条件を満たした状態で再度設定を行ってください。

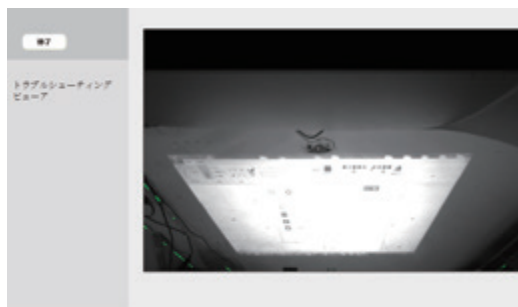
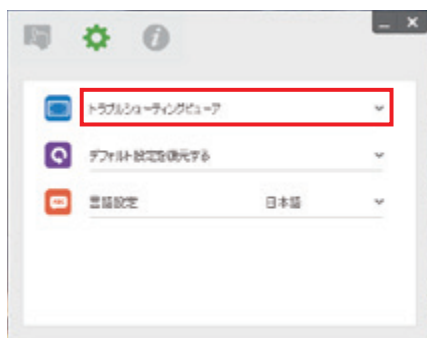
それでも自動設定が失敗する場合は、ユーザーマニュアル「[タッチ位置の校正を手動で行う](#)」を参照の上、設定を手動で行ってください。

トラブルシューティングビューア

周囲からの赤外線（IR 光）がタッチ性能に干渉する場合があります。トラブルシューティングビューアは、デバッグ（問題修正）のためにリアルタイム映像を表示します。光の干渉が緑色でマークされます。緑色でマークされた妨害物が映像領域内に表示される場合は、取り除いてください。

注意：トラブルシューティングビューアでは IR ペンによるタッチが無効になります。選択して終了してください。

注意：投影面周辺に 20mm 以上のフラットなスペースを確保してください。投影面周辺 20mm 未満に黒板枠や粉受けがある場合、IR ペンの校正及び使用に支障をきたす恐れがあります。



便利な機能

デジタルスライド機能

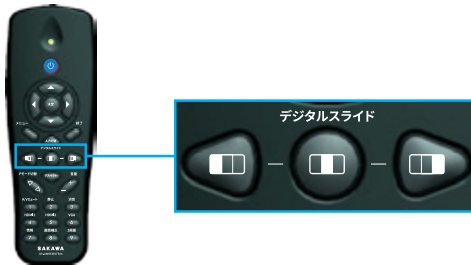
投影画面を左・中央・右に移動できます。板書と併用する際に便利な機能です。



- デジタルスライドは、アスペクト比 16:9 または、4:3 の状態のみ使用可能です。アスペクト比 16:6 での投影時は、デジタルスライドが使用できません。
- 「2 画面」機能がオンの時は、デジタルスライドをオンにできません。

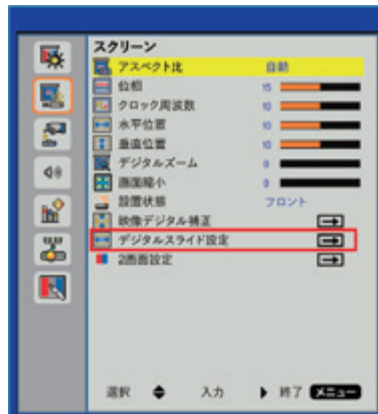
リモコンでの操作手順

- リモコンの【デジタルスライド】ボタンを操作することで、画面を左・中央・右に移動できます。

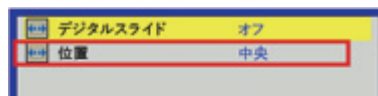


メニューでの操作手順

- メニューを開き、「スクリーン」>「デジタルスライド設定」を選択します。



- 「位置」で映像位置を移動できます。



2画面機能

画面を左右均等に分割し、それぞれに別系統の映像を出力する機能です。



左:メインソース / 右:サブソース



操作手順 (共通)

機器 2 台を映像ケーブルでプロジェクターに接続します。(接続例: HDMI1 と HDMI2 または、HDMI1 と VGA)

リモコンでの操作手順

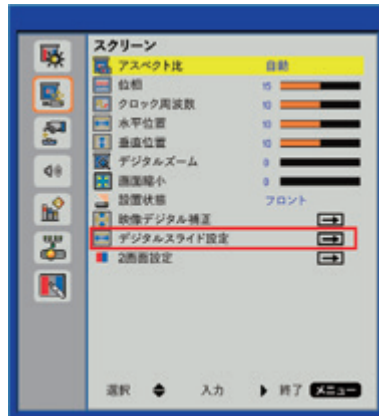
1. リモコンの [9] 【2 画面】 ボタンを押すことで「2 画面」機能に切り替わります。



2. いずれかの入力ソースボタン ([4] 【HDMI1】 ボタンなど) を押すことで、2 画面機能が終了します。

メニューでの操作手順

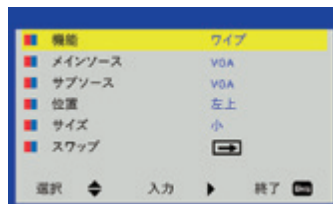
1. メニューを開き、「スクリーン」>「デジタルスライド設定」を選択します。



2. デジタルスライド設定を「オフ」にします。



3. 自動的に2画面機能に切り替わり、入力ソースの検出が始まります。
4. メインソースとサブソースを確認し、必要に応じて変更します。（「スワップ」を選択すると現在表示されているソースが入れ替わります）
※音声はメインソースからのみ出力されます。

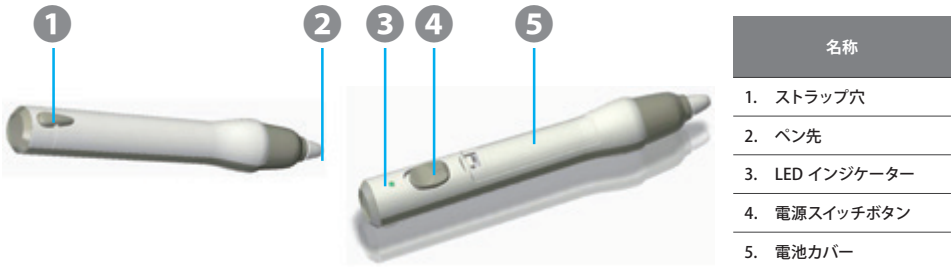


5. 2画面機能を終了するには、「スクリーン」>「2画面設定」>「機能」より、「オフ」を選択します。

インタラクティブ機能

IRペンの使い方

IRペンによるPCのタッチ操作を有効にするには、PCに、「IRペン&LCTユーティリティソフトウェア」がインストールされており、プロジェクターとPCがUSBケーブルで接続されている必要があります。



- 1. 付属の単四電池を入れます。
- 2. 電源をオンにします。

IRペンの使い方

IRペンで投影面をタッチ操作することで、クリックやドラッグといったPC操作が行えます。

日頃の使い方・メンテナンス

IRペンを使用しない時は、IRペンの電源をオフにしてください。

ペン先が摩耗して使えなくなった時は、付属の交換用ペン先と交換してください。

LEDインジケーターの見方

状態	電源スイッチ	LED の状態	注記
通常オン	オフ → オン	2 秒間緑色に点灯	
低バッテリー電源	オフ → オン	2 秒間赤色に点灯	バッテリー不足時
	オン	赤色に点滅 (ペン先が押されたとき)	
通常オフ	オフ	オフ	

※IRペンに関するその他の詳しい情報は、「ユーザーマニュアル」をご参照ください。

ワイドソフトウェアのダウンロード

ワイドソフトウェアを使うと、ワイドをさらに活用できます。株式会社サカワ web サイト (www.sakawa.net) にて、無償ダウンロードが可能ですので、是非お試しください。

ワイドソフトウェアでできること

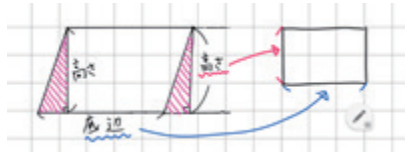
ペン書き込み

Microsoft Office、ブラウザやPDFなどにペンで書き込みができます。ウィンドウを最小化しても書き込んだ内容は保持されます。



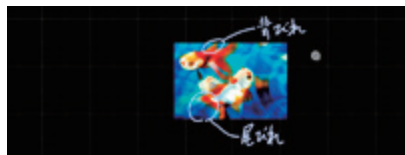
黒板モード&ガイドの表示

画面全体をカンバスにする「黒板モード」。英語の罫線や方眼などのガイドを表示できます。ガイドの幅は変更でき、背景の白黒反転も可能です。



画像配置

任意の画像を読み込み配置できます。(黒板モード時限定) 配置した画像は、拡大・縮小や移動が可能です。画像の上にも書き込みができます。



ワイド画面だから活きる、画面ならべ

任意のレイアウトでウィンドウを整理配置できます。ワイド画面にウィンドウを並べることで比較がしやすくなります。(2、3、4、8分割まで可能)



ワンボタンで画面サイズを変更

「4:3」「16:9」「16:6」の各ボタンを押すだけで、各アスペクト比に最適なPCの画面解像度(アスペクト比)に自動で変更される機能です。

ワイドのフル画面での使用(16:6)と、デジタルスライド機能の使用(16:9、または4:3)を頻繁に切り替える場合に便利な機能です。



ワイドウェブを使う

ワイドをご購入頂いた方は、「ワイドウェブ」をご利用いただけます。

ワイドウェブを使うと、ワイドの投影画面サイズ(アスペクト比16:6)をフルに活かした教材作成ができます。ワイドウェブは、ワイド購入者は無料で使用登録申請・ご使用が可能ですので、ぜひ一度お試しください。



詳細情報は株式会社サカワwebサイト (www.sakawa.net) にて

困ったときは

トラブルシューティング

ワイード本体

問題	対処法
解像度「1920×720」が設定できない	- 解像度1920×720は、プロジェクターを接続した状態でないと出現しません。 - PCが古い機種である場合など、PCによってはプロジェクターと接続しても設定ができない場合があります。 - 画面モードが「複製」の場合、設定できないことがあります。画面モードを「セカンドスクリーンのみ」にしてお試しください。

※本体の異常につきましては、[ユーザーマニュアル「LED インジケーターの見方」](#)をご確認ください。

IRペン&LCTユーティリティソフトウェア

問題	対処法
USBケーブルで接続しても認識されない	- PCからUSBケーブルを抜き、再度挿し直してください。 - USBケーブルを接続した状態で、PCを再起動してください。
「タッチエリア設定」または、「校正」が失敗する	部屋の明かりを消し、なるべく暗くした状態で行ってください。

LEDインジケータの見方

「プロジェクターが起動しない」など、動作がおかしい時は、まずはプロジェクター本体のコントロールパネルにあるインジケータを確認して対処法を試してみてください。

本機には次の3種類のインジケータがあります。インジケータの色と点灯状態によって本機の状態をお知らせします。

インジケータ			原因または状態	対処法
点灯/ 消灯	温度	ランプ		
 赤点灯	-	-	スタンバイ状態	正常です。
 青点灯	-	-	電源ON	正常です。
 赤点滅	-	-	起動準備中	正常です。
 黄点滅	-	 赤点灯	内部エラー	プロジェクターが自動的にシャットダウンします。 頻繁に発生する場合は、お買い上げの販売店または、「ご相談窓口」に連絡ください。
-	 赤点灯	 赤点灯	電源エラー	コンセントから電源プラグを抜き、3分ほど待ってから再度電源プラグをコンセントに挿してプロジェクターを起動してください。
 黄点滅	 赤点滅	-	内部エラー	プロジェクターが自動的にシャットダウンします。 頻繁に発生する場合は、お買い上げの販売店または、「ご相談窓口」に連絡ください。
-	 3秒間隔の 遅い 赤点滅	-	ファン異常	コンセントから電源プラグを抜き、3分ほど待ってから再度電源プラグをコンセントに挿してプロジェクターを起動してください。
-	 0.5秒間隔 の速い 赤点滅	-	カラーホイール 異常	お買い上げの販売店または、「ご相談窓口」に連絡ください。
-	 赤点灯	-	内部高温異常 (オーバーヒート)	異常ではありません。プロジェクターが高温になると投影を自動停止します。 頻繁に発生する場合は、以下を確認してください。 コンセントから電源プラグを抜き、3分ほど待ってから再度電源プラグをコンセントに挿してプロジェクターを起動してください。
-	-	 赤点灯	光源に関する エラー	コンセントから電源プラグを抜き、3分ほど待ってから再度電源プラグをコンセントに挿してプロジェクターを起動してください。

注意

1. 本書の内容の一部、または全てを無断転載することをお断りいたします。
2. 本書の内容について将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容に、万が一不審な点や誤り、お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 本ソフトウェアの使用の結果の影響につきましては、3. 項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
5. プロジェクターがお客様により不適當に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、または株式会社サカワ指定の者以外の第三者により、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
6. 本書中の画像・挿絵は実際と異なる場合があります。

商標について

- ▶ Microsoft、Microsoft Office、PowerPoint、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- ▶ HDMI、HDMIロゴ、高精細マルチメディアインターフェイスは、米国および他国におけるHDMI Licensing LLCの登録商標または商標です。
- ▶ DLP®、DLP Link、DLPロゴは、Texas Instrumentsの登録商標です。BrilliantColor™は、Texas Instrumentsの商標です。
- ▶ 本取扱説明書で使用する他のすべての商品名は、それぞれの所有者の財産であり承認されています。
- ▶ なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

その他の詳しい情報について

ワイドに関するその他の詳しい情報につきましては、株式会社サカワwebサイト (www.sakawa.net) にて公開している「ユーザーマニュアル」をご確認ください。

トラブルに関するお問い合わせ先

プロジェクターの使用中のトラブルに関するお問い合わせは、ワイドご相談窓口にて受け付けております。

※お問い合わせの際はプロジェクター本体に記載されているシリアルナンバーを確認することがあります。

ワイドご相談窓口

受付時間：平日 9:00 ～ 17:00（土日祝は休み）

089-924-5020